

SCSK株式会社

社長IRミーティング

執行役員 社長 最高執行責任者
當麻 隆昭

2022年6月7日

1. 所感
2. 現在までの道のり
3. 将来に向かって: グランドデザイン2030
4. 将来に向かって: 中計2021-2023
5. 現状認識と持続的成長に向けた3つの進化
6. 2022年度優先取り組み事項
7. 目指す経営像

- TVCMについて
- 強固な顧客基盤について
- 事業拡大を支える人財力について

2. 現在までの道のり

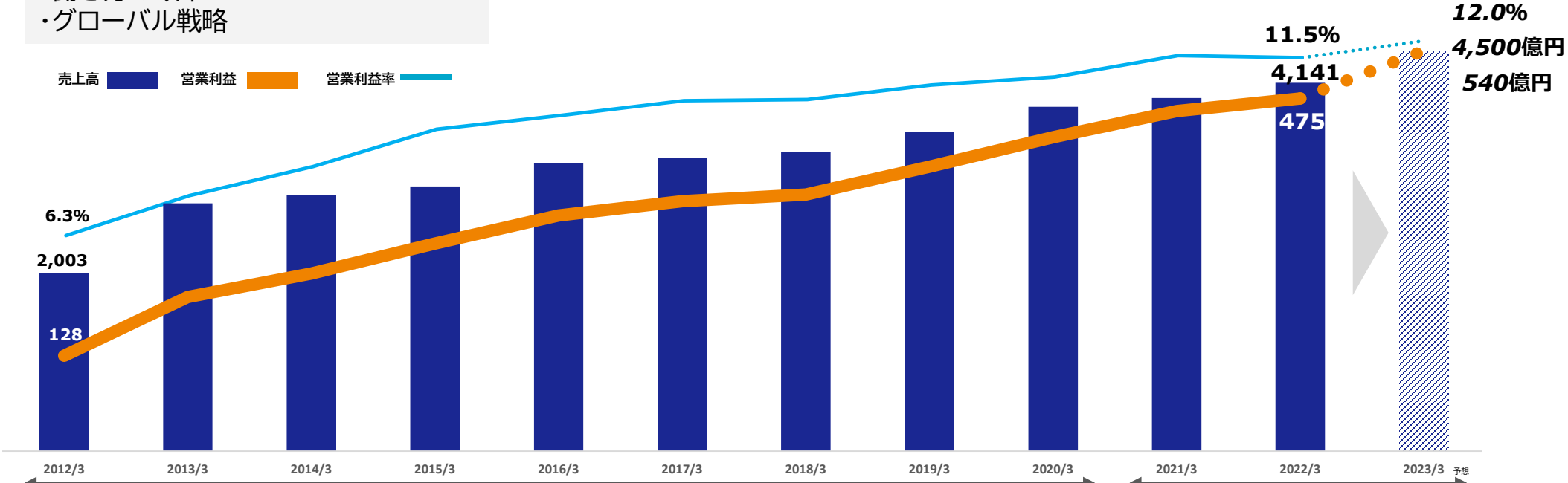
- ・ 10期連続増収増益
- ・ 合併後の各フェーズで適切な方針のもと着実に事業規模を拡大



中期経営計画(2013/3-2015/3)
真の融合の推進と合併シナジーの追求
 ・クロスセル戦略で売上高拡大
 ・コアパートナー制度と、当社独自の開発標準SE+で収益性拡大
 ・働き方の改革
 ・グローバル戦略

中期経営計画(2016/3-2020/3)
労働集約ビジネスからの脱却
 ・サービス提供型ビジネスへのシフト
 ・車載ソフトウェア事業
 ・グローバル展開 第2ステージ

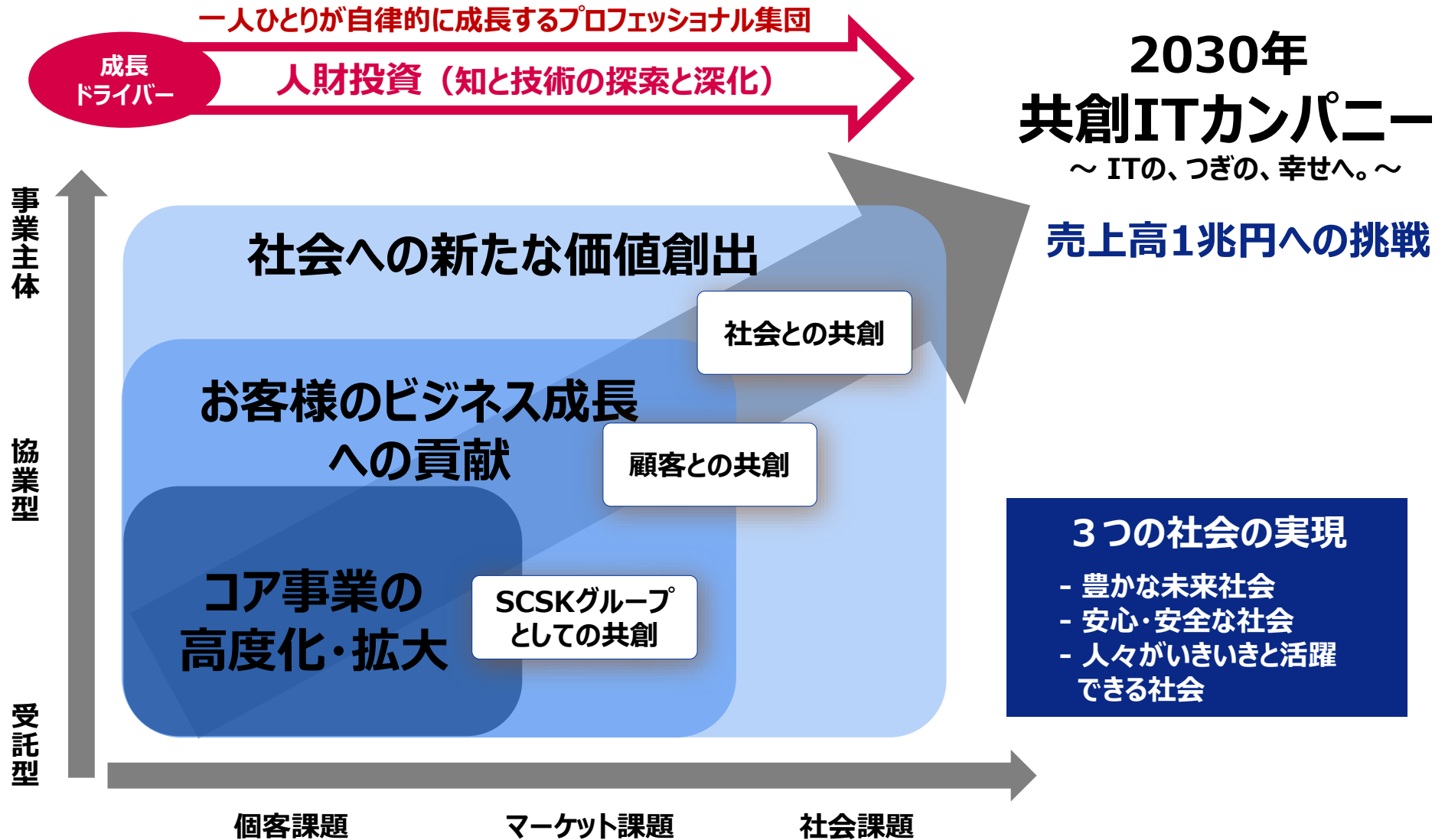
中期経営計画(2021/3-2023/3)
新たな価値創出に向けた事業変革
 ・DX事業化
 ・事業革新
 ・人財投資



JGAAP

IFRS

3. 将来に向かって: グランドデザイン2030

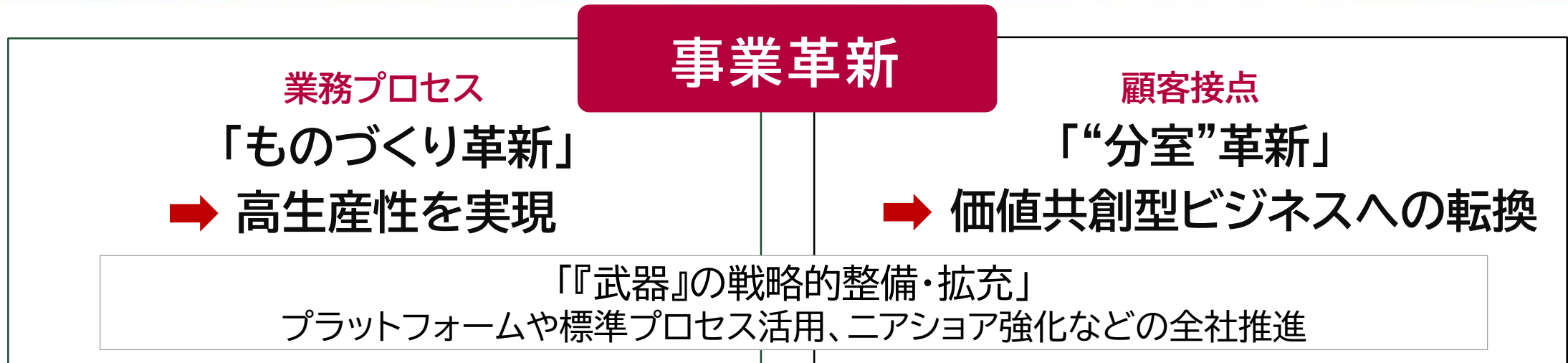


2030年
共創ITカンパニー
～ ITの、つぎの、幸せへ。～

売上高1兆円への挑戦

3つの社会の実現

- 豊かな未来社会
- 安心・安全な社会
- 人々がいきいきと活躍できる社会



■S-Cred+プラットフォームの本格的なロールアウトフェーズへ

- ・グループ企業・コアパートナーを含めて生産性の向上 → **30%向上を目標**
- ・21年度案件数は70件超。まずは**案件適用率30%**を目指す

■サービスマネージャの養成加速

- ・顧客のDX戦略を理解し、企画立案から実装まで一気通貫で取り組める
高度ITエンジニアを養成
- ・中計2年間で90名育成 → 中計3か年で**150名目標**

4. 将来に向かって：中計2021-2023

クラウドサービスインテグレータへ

グループ知財の活用



- ・プラットフォームに搭載されたパッケージやテンプレートの適用
- ・独自サービス提供の為にプラットフォームとして展開

自社開発クラウドサービス

各種クラウドサービス

独自開発の
ものづくり革新プラットフォーム



S-Cred+ エスクレドプラス

ローコード・ノーコード開発基盤

S-Cred+ フレームワーク
スクラッチ開発基盤

API連携
データ連携基盤

データセンターの高付加価値化



- ・クラウド事業者との広範なエコシステム化

マルチクラウドサービス

4. 将来に向かって：中計2021-2023

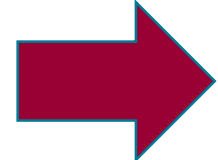
地方拠点の質的・量的拡充によるデジタル人材力向上 第2ステージへ
 ～高度IT人材の国内ネットワーク化・地域社会における共創ITカンパニーを目指して～

<第1ステージ>

グループ地方拠点の拡充

(地方での「雇用拡大」・「働き方改革推進」・「女性活躍」)

- ⇒ IT人材の獲得・育成
- ⇒ DevOpsサービス他当社サービス力の定性定量両面での拡充



<第2ステージ>

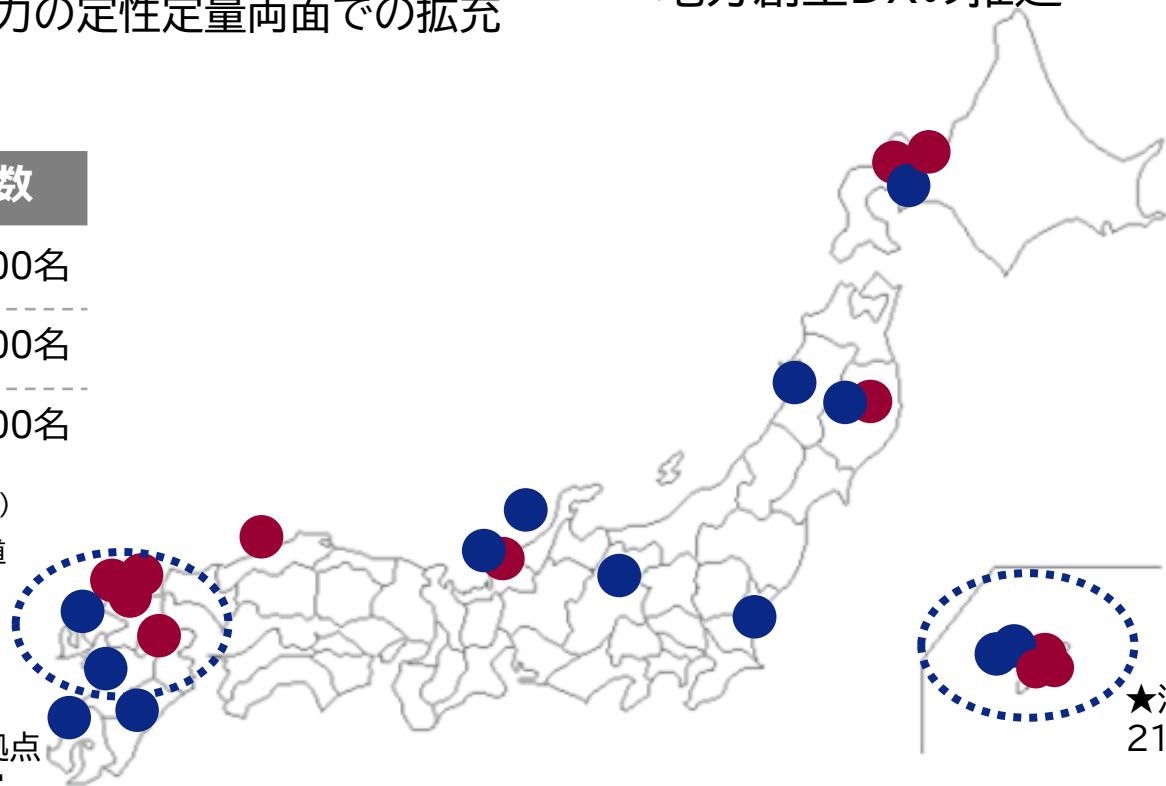
地方拠点における高度IT人材の育成

- ⇒ 国内IT人材の地域横断的活用
- ⇒ 地方創生DXの推進

| 拠点区分 | 拠点数 | 要員数 |
|----------|-----|---------|
| ● 開発 | 13 | 約1,900名 |
| ● 検証・BPO | 12 | 約2,800名 |
| 合計 | 25 | 約4,700名 |

※要員数: ビジネスパートナー含む(2022年3月末時点)

※開発区分はSCSKニアシオアシステムズ、SCSK北海道
 SCSK九州、SCSK Minoriソリューションズ
 検証・BPO区分はSCSKサービスウェア、バリサーブ
 で構成

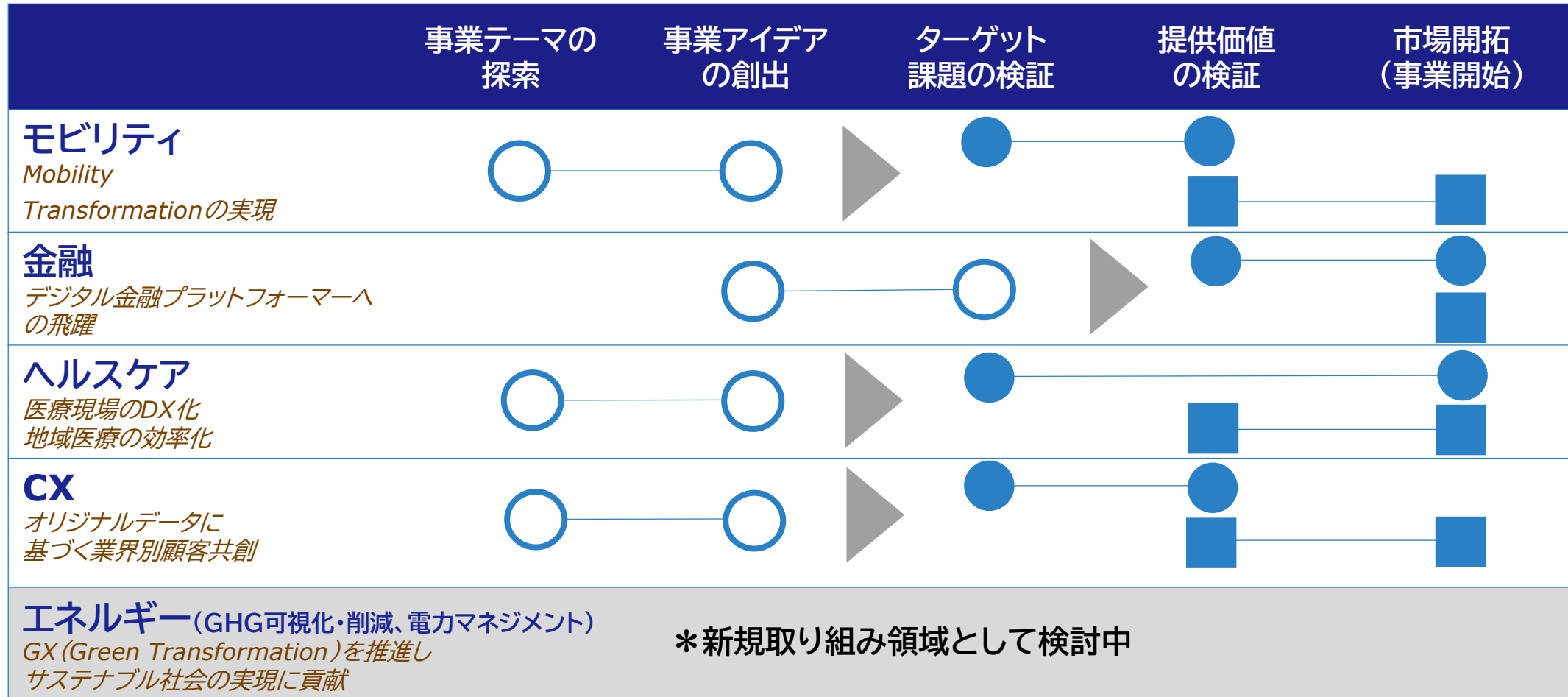


★九州地区
 22年度 ニアシオア拠点
 大分・長崎に開設予定

★沖縄地区
 21年秋に浦添拠点開設済

4. 将来に向かって： 中計2021-2023

DX事業化



○ 22/3期期初 ● 23/3期期初 ■ 23/3期期末

投資費用： 21/3期約20億円 22/3期約30億円 23/3期約40億円予定

5. 現状認識と持続的成長に向けた3つの進化

中計3年目の現状認識

事業環境の変化が加速

- ・デジタル化の加速・進展
- ・ITベンダーの役割の変化
- ・ブロック経済化
- ・コロナによる社会構造の変化
- ・脱炭素化への高まる意識

持続的成長に向けた3つの進化

●顧客関係の進化

顧客・取引分野・サービス内容・顧客との関係性

●事業モデルの進化

営業手法・ビジネスモデル・価格設定

●組織・人の進化

担当業務・役割・経験・文化・思考

必要なものは
「自己変革能力」

社会変革の方向感を決定づける
“Game Changer”を目指す

①DX Enablerへの進化

②「個客」志向からマーケット志向へ

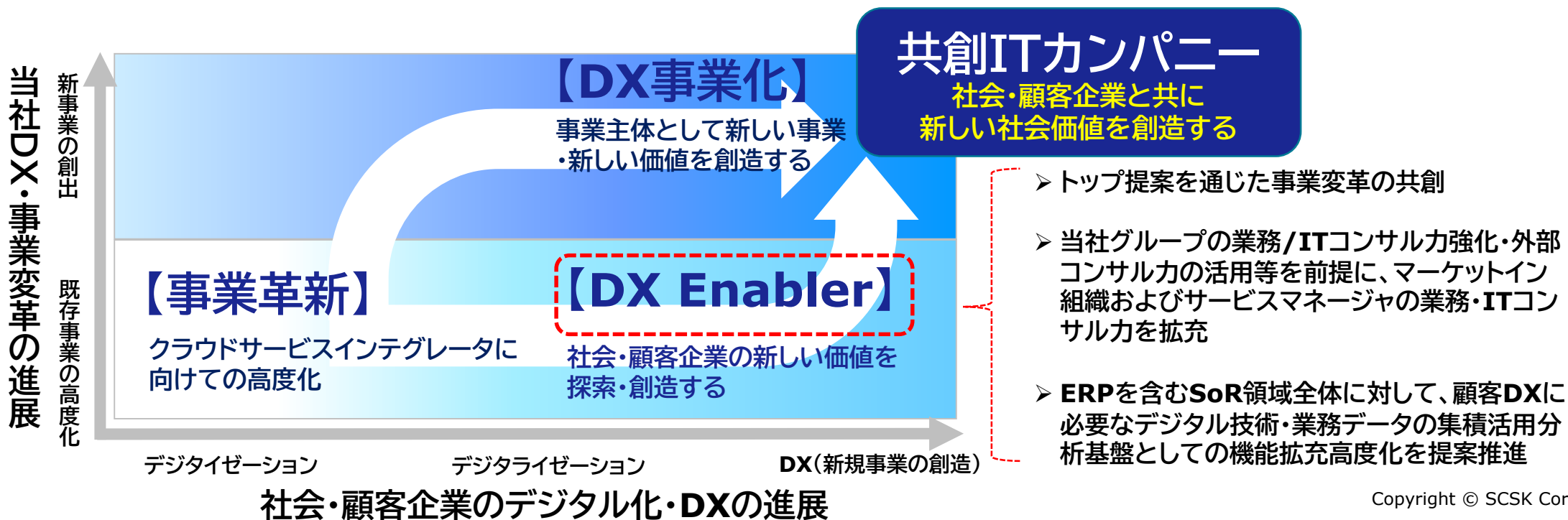
③特定領域の戦略的強化

④事業ポートフォリオ変革による収益性強化

DX Enablerへの進化

既存のITサービス事業を、顧客のDigitalization・DX支援推進事業へ大きくシフト

DX Enabler: 顧客・企業のDXの取り組みを可能にする、支援する事業者
 先端デジタル技術を発信元に、顧客の新規事業の具現化を支援・推進する



「個客」志向からマーケット志向へ

顧客向けに培った知財を強みに、業種・業界向け共通サービスを拡充

顧客課題と当社知財の組み合わせで業種・業界固有のニーズに応える総合的なITサービス例

製造業向け



- 製造現場で培ったノウハウを活かし、生産からロジスティック、販売後のアフターサービスまでの業務をテンプレート化したITサービス
- ローコード・ノーコード開発基盤上で柔軟な構築・カスタマイズが可能

流通業向け



- F.ACE等のEC業務系プラットフォームサービスに、コンタクトセンター、Webコマース、フルフィルメントサービス等顧客接点領域高度化に向けたソリューションを包括したITサービス

金融業向け



- マネーロンダリング、振り込め詐欺、反社会的勢力、口座不正利用など様々な金融犯罪対策を支援するトータルソリューション
- 2021年10月次世代バージョン提供開始(AI機能搭載、クラウド提供)

特定領域の戦略的強化

ERP事業、グローバル事業を「組織横断の全社戦略」として位置づけ

ERP事業

- 顧客DXの推進に必要なデジタルデータ・業務基盤構築ニーズへの対応
- **DX Enabler**としての大切な技術要素
- SAP Business Technology Platform (**SAP BTP**)への取り組み
- グループ会社による**ProActive C4**のさらなる販路拡大

グローバル事業

- グローバル標準と評価されているITサービス(SAP他)を核に、グローバル市場をターゲットとして事業を再構築
- **Emerging Markets**にて日米欧のDigitalization・DX成果を事業化展開
- 海外ベンダーとの資本提携/協業パートナー

事業ポートフォリオ変革による収益性強化

中期的に営業利益率15%超を目指す

達成のために不可欠な要素

- **DX Enabler**への事業シフト

- クラウドサービスインテグレータへの転換加速

データセンターサービスとPaaSソリューションを連携、その上に当社知財ベースの独自ITサービスを組み合わせ、クラウドベンダーのサービスとも組み合わせで展開する

- 収益性の劣る事業の縮小・撤退とリソース再配分による**高収益性の実現**

- 事業ポートフォリオの見直し

SCSK Minoriソリューションズによる中堅企業マーケット市場への深耕等

- アライアンス・資本業務提携・**M&A**等を追求

“共感経営 ↔ Well-Being経営”

「健康経営」を超えて
「Well-Being経営」へ

● Well-Beingの追求



● 人材の自律的成長(能力開発・能力発揮)



● 社会的存在意義を強くし、サステナブルな企業成長へ

● “共感経営”とは

▶ 経営理念・事業ビジョンへの共感

▶ 多様な個の尊重・共感・共鳴



● 共創の実現(個人や一企業では成し得ない、大きくそして新しい社会価値の創造)

「共感経営」の推進

< 免責事項 >

- 本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- 本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

SCSK

夢ある未来を、共に創る。